

# 古里復興 希望見えた

## AMD A協力 岩手の高校生 現地の状況報告

岡山で交流会

東日本大震災による津波で壊滅的な打撃を受けた岩手県大槌町で、国際医療ボランティアAMD A(本部・生と交流。復興の兆し

岡山)の活動に協力している高校生2人が23日、岡山市で被災地を支援する県内の高校生と交流。復興の兆し



被災地の現状を報告する(左から)小林さんと三浦さん

が見え始めた古里の状況を説明したほか、一緒に祭りずしを作って楽しんだ。2人は共に岩手県立大槌高2年の小林瑞季さん(16)と三浦良美さん(17)。AMD Aが6月に現地で組織した「AMD A高校生会in大槌」のメンバーで、避難所のリーダー的な存在の住民らでつくる「AMD A大槌クラブ」と、炊き出しの補助を行うなど活動を続けている。

岡山市北区奉還町の岡山国際交流センターで行われた交流会には岡山の高校生13人を含む約30人が参加。小林

さんが「町を覆っていたがれきは、ほぼ撤去された。仮設住宅の建設も進み、復興に向けて希望が見えてきた」と説明。操山高3年倉橋奈津子さん(17)は「今後心にも届くよう

な支援を継続して行こう」と決意を述べた。その後、祭りずしを作って食べながら交流。2人は岡山の高校生から「これが岡山の名物よ」と教えてもら

上がったりしていた。AMD Aは現地の医師らに休暇を取ってもらう狙いで、8月に医師や看護師を再び被災地の病院に派遣することを計画している。

(亀井良平)